

令和4年4月門川町臨時教育委員会会議録（概要版）

- 1 日 時 令和4年4月26日（火） 午前8時45分～午前10時30分
- 2 場 所 庁議室
- 3 出席委員 新原とも子教育長、久保廣良教育長職務代理者、黒木昌代委員、
金丸眞委員、新名章委員
- 4 事務局 椿原教育課長、奈須教育課長補佐、鈴木教育課長補佐
- 5 議 事 令和4年度学校経営説明（各学校長）

6 議事の概要

（1）開会（午前8時45分）

（2）教育長あいさつ

（3）議事

令和4年度学校経営説明（各学校長）

●新原教育長

学力向上に係る事柄とともに、今年、各学校において、具体的に成果を出したいと思っている事柄について中心に説明をお願いしたい。

また、説明後は、学校同士、教育委員、事務局から質問をして頂き、理解を深めるようにしていただきたい。

門川小学校 荒武校長が資料を用いて説明

●新原教育長

課題を捉えたうえで、それらに対する改善の方策を列挙していることが特徴である。

○金丸眞委員

コロナウイルス感染症拡大防止のため、図書貸出を行う昼休みがカットになっているとのことであるが、今年度、図書の貸出にあたって、どのように改善を図っていくのか。

●荒武校長

昨年度から、授業中に学級担任が児童生徒を学校図書館に引率して行き、図書貸出を行うように対処している。

○金丸眞委員

ハートフル委員会とは、どのようなものか。

●荒武校長

いじめに関することや児童生徒の悩みについて毎月1回アンケートを実施し、全教員で情報共有し指導にあたる委員会である。

○中田校長

CRT結果報告を見ると、第4学年が突出して良い。なんらか年間を通して取り組んできた

成果が数字として表れていると思われるため、取り組みについて他校でも情報の共有をお願いしたい。

○久保廣良委員

町立図書館の活用に関して、門川小学校から町立図書館まで近距離ではあるが、移動時間を考慮すると読書時間が限られるように思うがどうか。

●荒武校長

町立図書館の利用状況については学年差があり、高学年において利用時間を作りにくいようである。移動時間が必要なために実際の読書時間が限られてくることは致し方ないが、町立図書館が近距離にある立地を生かせるよう、今後の取り組みを考えていきたい。

草川小学校 中田校長が資料を用いて説明

●新原教育長

校長として1年間学校経営を行ってきたうえで、2年目にあたっての改善点を盛り込んであるのが特徴である。

●崎田校長

体力向上プランを基に児童生徒の体力の現状を把握したうえで、体育の授業にどう活かしていくかが、どの学校でも課題となっていると思う。

●中田校長

本年度、体育主任が具体的な活動を進めるために、宮崎市が作っているプラン「ひむかプログラム」の体の柔らかさ、持続力、巧みな運動、力強い運動などの色々な取り組み事例を各学級担任に1冊ずつ配布し取り組みを依頼している。

ただし、配布するだけでは実践されないので、体育主任には定期的に取り組みの効果について各学級担任に紹介をしてもらいたい旨の話をしている。

○新名章委員

タブレットPCの積極的な活用に関して、資料に探求的な学習の推進とあるが、そこに先生方が目を向けているかどうか、児童生徒のなかにタブレットPCが浸透していく一つのポイントになるのではないかと考えている。説明のなかで総合的な学習の時間での積極的な稼働を述べられていたが、具体的な構想などはどうか。

●中田校長

本町では、授業支援システムとしてスマイルネクストというシステムが入っているが、国語や算数の授業のなかでも話し合いの場面で活用できると考えている。しかしながら、それらの授業では活用の時間が限られてしまうため、時間に余裕を持たせてある総合的な学習であれば探求スパイラルのなかで、整理・分析やまとめ・発表の際の一つの手段としてシステムの機能を活用できると考えている。

タブレットPCを使うことが目的となってしまう一面はあるが、総合的な学習の時間に積極的に使っていくことが、最終的には、国語や算数の授業のなかでも活用できるようになるものと考えている。

五十鈴小学校 崎田校長が資料を用いて説明

●新原教育長

校長の思いを形に表した経営案となっている。

○黒木昌代委員

崎田校長には、西門川地区児童生徒を指導頂き深く感謝する。

また、今年も西門川地区との交流が計画されており、地域の児童生徒も含めて西門川小・中学校があったことを伝えていきたいと思う。

●荒武校長

門川「授業の五箇条」に関して、今後の小中連携・小小連携を考えていくにあたり、私自身も考えを整理したいと思うので協力を願いたい。

●新原教育長

この取り組みは教務主任部会において、協議のうえ作成したものである。

●鈴木教育課長補佐

重点支援訪問に関して、県教委の考え方と合致するもので、今年から支援訪問時のフィードバックを個人に対してではなく、メンターチームに対して実施することとしている。

学力の高い秋田県や石川県では指導主事が指導案づくりから関わっており、本町でもそのような方針で臨みたいと考えている。

●隈元校長

全国学力調査や宮崎学力調査の問題を活用して朝トレを実施しているとのことで、中学校でも同様の取り組みを進めているところであるが、過去問題の収集に苦慮している。五十鈴小学校ではどのようにしているか。

●崎田校長

インターネットを活用し、スクールサポータスタッフに依頼して題本を作成している。

●隈元校長

研修センターのホームページに全国学力調査の問題は掲載されているが、国語の長文に関しては著作権の関係でその部分が削除されている。また、宮崎学力調査に関しては業者テストへなった関係で掲載されていない状況にある。今後、学校で問題を保存しておくようにしたい。

門川中学校 隈元校長が資料を用いて説明

●新原教育長

新任者の目に見えてきた課題、今年、その課題に取り組んで行きたいという意気込みを感じさせるものでした。

●中田校長

いじめ未然防止推進校に認証されたならば、小学校とも連携した取り組みをお願いしたい。将来、中学校の取り組みが進んだ際には、中学生から小学生に話をしてもらえるような相互交流に発展させることが出来ればと思っている。

●隈元校長

県内他校のいじめ未然防止推進校の取り組みを見ると、学校側で取組内容を決定しているケ

ースが多い。生徒会を活性化させる意味でも、生徒自身が自分たちで考えて実行していく取り組みとしていきたい。

○金丸眞委員

隈元校長のやる気を感じさせる説明であったと思う。今後の門川中学校に期待している。

教職員の和を大切にしたいとのことであり、先生方から校長へ、あるいは、生徒から先生方へ何でも話せて相談できる学校・クラス的环境づくりを実現させて頂きたい。

○久保廣良委員

いじめ問題に関しては、以前は、小学校3校の児童生徒が門川中学校へ進学して初めて顔を合わせることに起因し、いじめに発展することがあった。

については、小学校のときから交流を図り、お互いに親しみを持てるような交流の場や機会を設けることが出来ないか検討を願いたい。

●新原教育長

地域もまた交流の場や機会になるのではないかと考えている。

(4) その他

●新原教育長

全体を通して他に質問があればお願いしたい。

○久保廣良委員

教育研究所の資料に目を通してみると、教科ごとや教師ごとによってタブレットPCの使用状況に差が出ていたが、教科によって使用する、しないなどあるのか。また、教師の得手、不得手による状況はどうか。

公費を用いて一人一台導入したタブレットPCの使用の差が、学力向上の差として影響してこないか心配している。

●新原教育長

本来、タブレットPCを使うことを目的にしていないが、ただ、導入した今の段階では致し方ない面もあり、活用について模索している状況にある。

授業の目標によっては、使う必要がない場合、使っても使わなくてもよい場合、使うべき場合など、教科によって異なるので、タブレットPCの使用状況に差が出てくることはやむを得ない。他には、授業だけではなく朝の健康管理等に活用するなどしてタブレットPCに慣れさせることも想定される。

●中田校長

I C Tに自信の無い先生は使用を避ける傾向が見られる。これは、システムトラブルが発生した場合など、その対応に時間を使ってしまっ、本来の授業時間が短くなってしまいうことがある。

また、低学年については、まだタブレットPCの使用スキルが身に付いていないため、使用が限られざるを得ない面があるが、高学年については、授業のどこかの場面で頻繁に使用する

ような、ほぼ文房具に近い状況になってきている。

●新原教育長

現在、使える場面や効果的な場面では使っていく方向で進みつつあるとご理解いただきたい。
今回、各学校の状況をご理解いただけたものと思う。校長先生方においても、他校の取り組みで参考にしたい点や協力して取り組みたい点などあれば、一堂に会した意味もそこにあるので今後の学校経営に活かしてもらいたい。

7 閉会（午前10時30分）